



# 育成センターだより

鹿児島市山下町6-1 Tel 227-1972

## 【3月の重点指導事項及び着眼点】

- 1 深夜はいかい・非行防止  
夜間の商業施設、遊技場、駅等でのはいかい少年への声かけ（家出、万引き、飲酒ほか）
- 2 喫煙・薬物乱用防止  
未成年の喫煙、薬物使用等に対する防止及び啓発活動の推進

## 感謝の心をはぐくみ、心豊かに生きる



いよいよ令和5年度の締めくくりの月。子どもたちにとっては、今年度を振り返り、次のステップへの準備をする大切な月になります。

特に、卒業を迎える小学6年生、中学3年生、高校3年生は、慣れ親しんだ学校で仲間や先生方等と過ごす時間が、確実に少なくなっていく。中には、就職や進学のために家族や住み慣れた故郷を離れ、慣れない土地で新しい生活を始める人もいることと思います。惜別の思いや、新しい場所での生活に対する期待と不安をもつ時期だからこそ、ぜひ、一日一日を大切にするとともに、万全の準備をして新年度のスタートができることを願っています。

さて、これから子どもたちが生きていく社会は、テクノロジーがこれまで以上に急速に発展し、変化の激しい社会になると言われています。テクノロジーの急速な発展が予想できるのは、電話機の発達をたどるとよく分かります。

グラハム・ベルが電話機を発明したのが1876年。長い固定電話の時代を経て、重さが約1kgもある初の携帯電話が日本で発売されたのが1987年。ここまでに111年もかかっています。それから、日本で

初めてスマートフォンが発売されたのが2008年。ここまでたった21年しか要していません。その後、10年足らずでスマートフォンは驚くほど普及しました。

このように、テクノロジーの急速な発展により、これまで経験したことのない、変化の激しい社会になるのは避けられないと思われます。変化が激しいと、我々人間はつい目の前の事象だけに捕らわれ、心に余裕がなくなりがちです。それだからこそ、意識的に自然や人の心に触れることが必要になるのではないかと思います。

進級、卒業等の節目の時期に、来し方をたどりながら、その時々で出会い、支え、励ましていただいた方々の思いに心を巡らし、「ありがとう」という言葉で表現することが、感謝の心をはぐくむことにつながり、心豊かに生きることに繋がると考えます。

「ありがとう」をたくさん使い、  
「ありがとう」をたくさん集め、  
「ありがとう」で終われるように生きる  
「あたりまえ」のことに気づき、  
「あたりまえ」を「あたりまえ」にこなし  
「あたりまえ」に感謝して生きる  
(株式会社アースホールディングス代表取締役・創業者 國分 利治 氏)

## 「心」を感じる

毎朝、西郷隆盛像に見守られながら通勤しています。郷土の偉人、稲盛和夫さんは、西郷南洲翁の人となりや著書の中で、「かつて、とびきり美しく温かい心をもった、ひとりの上質な日本人がいたことを思い起こす」と記しています。「心」、私たちの周辺には、どのような「心」が。頻繁に見聞されるのは、「心無い」言動による悲しいニュースが多いような気がします。そのようなご時世の中で、私はとびきり美しく温かい「心」と行動に感謝する事柄がありました。

私の娘は、通学時に公共交通機関のバスを利用しています。その日もいつもと同じようにバスで通学していましたが、娘は体調が思わしくなく、意識を失いそうになりました。近くの見ず知らずの乗客の方に、具合が悪いことを相談し、運転手に娘の異変を伝えてもらったそうです。最寄りのバス停で駐車し、意識混濁の娘のために救急車を呼んでいただいたそうです。乗客の方が娘に寄り添い、娘と一緒にバスを降りてくださり、救急車が到着し、救急隊に引き継ぐまで、バスも待っていてくださったようです。通勤通学等で多くの方がそのバスを利用されていたとは思いますが、皆様の「心」温まるご対応に感謝するしかございません。

西郷南洲翁の思想を端的に述べた「敬天愛人」。天を敬い、人を愛する世の中を、次代を担う青少年に引き継ぐことが、我々大人の使命だと思います。

## 春の心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育てる運動

春は、卒業・進学・就職など、青少年にとって人生の節目となる貴重な経験をする大切な時期です。青少年の生活環境が変わるこの時期に、家庭・学校・職場・地域及び関係機関・団体が緊密な連携を図りながら、市民一人一人が、青少年の健全育成に対する理解を深め、次代の鹿児島市を担う心豊かで元気あふれる「さつまっ子」を育成するため、下記の運動を実施いたします。

記

- 1 期間 令和6年3月11日(月)～4月10日(水)
- 2 テーマ

「育てよう 思いやりのある子に たくましい子に」

- 3 重点事項
  - (1) 青少年の仲間づくり支援
  - (2) 「おはよう」などの温かい声かけ
  - (3) 親子でさまざまな体験活動への参加
  - (4) スマートフォン、ゲーム機器等の正しい使い方やネットトラブルについての家庭や地域での話し合い
- 4 実践事項
  - (1) 本運動の普及・啓発活動の推進
  - (2) 地域ぐるみの青少年育成の推進
  - (3) 青少年を育てる環境づくりの推進
  - (4) 明るい家庭づくりの推進
  - (5) いじめ問題への取組
  - (6) 交通事故防止の推進